

# ブルーベリー

## の育て方



### ●ワンポイント

- ①ブルーベリーに含まれるアントシアニンは、眼に良い成分です。
- ②アントシアニン・ポリフェノールの抗酸化作用は、生活習慣病の予防する成分として期待されています。
- ③ブルーベリーは酸性土壌を好みます。(pH4.8が目安)
- ④乾燥に弱いため、わらを敷くなどして防ぎましょう。
- ⑤実付きを良くするために同系統の2品種を育てましょう！

### ●栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	休眠		枝葉の伸長			樹の充実			休眠			
				開花	果実の肥大		花芽分化					落葉
	剪定	施肥					収穫			施肥		

※時期は目安です

## 1 ブルーベリーの種類

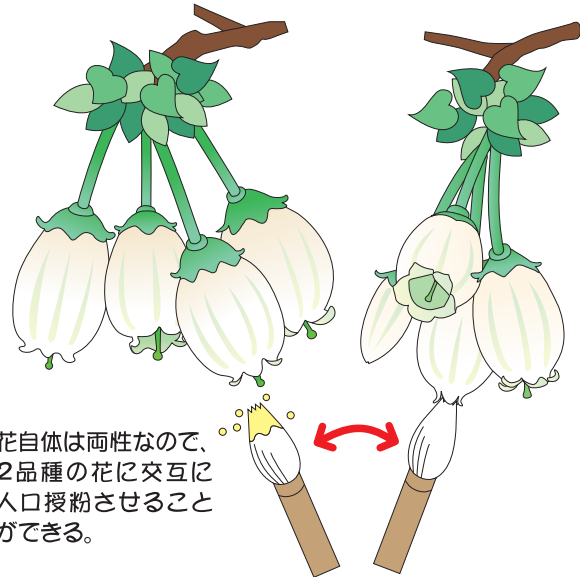
ブルーベリーの種類は、2系統に大別されます。同系統の他の品種を2つ以上育てると実付きが良くなります。

### ラビットアイ系

ある程度の暖地まで栽培が可能です。代表種は、ホームベル、ウッタード、ティフブルーです。

### ハイブッシュ系

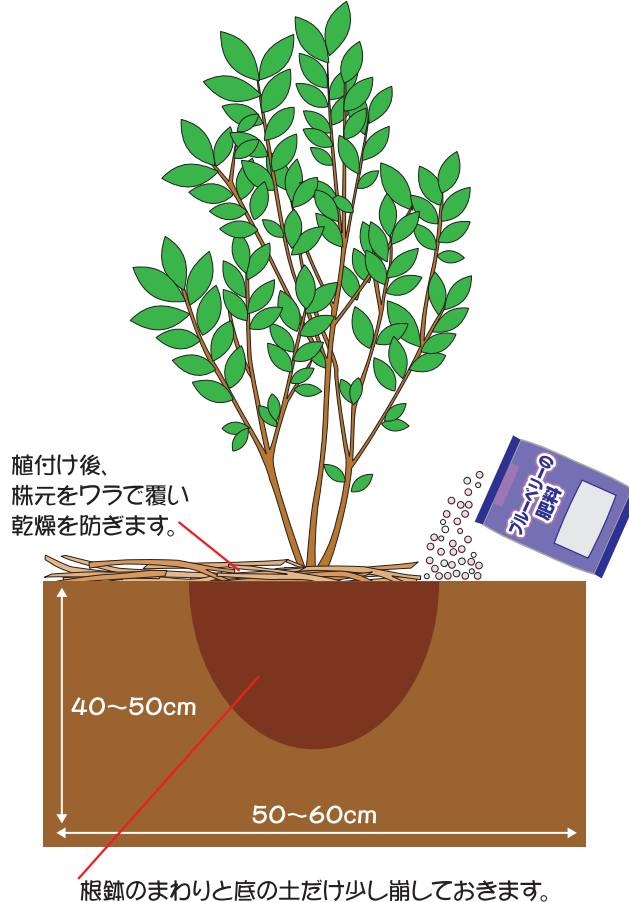
耐寒性に優れており、寒地に適しています。果実は大きい系統です。代表種は、ルーベル、ジャージー、ハーバード、ウェイマウス、タロー、ノーザンスパイダーです。



花自体は両性なので、2品種の花に交互に人工授粉させることができる。

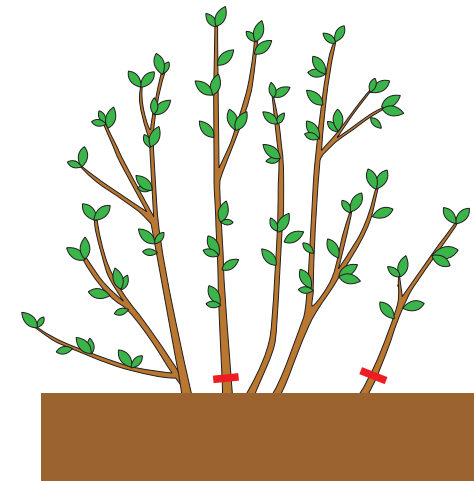
## 2 植付け

ブルーベリーは乾燥に弱いので、敷わら等で乾燥を防ぎます。土はヒートモスを混ぜ込むなどしてあげましょう。



## 3 剪定 (4年目以降の冬)

剪定により内部に日射が行き渡るようにし、収量・品質を安定させます。植え付け後1~2年は全ての花芽をカットして、結実させません。幼木の時に実を付けすぎると樹木が弱ってしまいますからです。ホームセンター等で購入の際は、樹木の年齢も確認しましょう。剪定は1月2月が適期です。



葉の中央で混み合った部分の強い枝を株元から切り取る。シュート(株元から発生する新梢)の先端は剪定する。サツカー(株からやや離れて出る新梢)は先端を切りつめるが、株元から切り取る。

